

事業名

大学と連携した多文化・多世代の 交流事業

事業概要

- 大学の社会学部多文化共生コースの学生との連携により、「西が丘多文化クラブ」を開催。子供向けの学習支援や日本語教室を通じ、団地に住む外国籍の家族との交流。
- 「やさしい日本語」での説明やチラシの配布により、多国籍の住民も参加しやすい防災訓練を実施。

実施期間 令和4年4月1日～

参加人数 延べ約200名

事業総額 約34万9,300円
(地域の底力発展事業助成金 30万円)

役割分担

《企画・運営(15名)》

自治会役員と大学教員が中心となり連携して企画立案、進行管理

《企画・連携支援(10名程度)》

学校法人東洋大学から学生が参加

《広報(7名)》

多言語、「やさしい日本語」で書かれたチラシを作成し、回覧・配布



多言語、「やさしい日本語」を使った開催案内チラシを貼った手書きの表示

主な経費(助成対象)

- 物品購入費
感染対策用品(パーテーション、アルコール消毒液等)、文具、インクカートリッジ、飲料、コピー用紙
- 謝礼金
日本語教室・防災訓練の講師謝礼
- 印刷経費
ポスター印刷費、チラシ印刷費

実施までの主な流れ

- 令和4年
- 2月26日 日本語講師を依頼するNPOとのミーティング
- 3月1日 役割分担を決定
- 4月 多文化クラブの内容について打ち合わせ
- 4月下旬 多文化クラブの開催周知(以降、毎回開催1カ月前に掲示板、1週間前にポスティングで周知)
- 4月29日 多文化クラブの実施(以降、8、9月を除き、令和5年3月まで月1回実施)
- 7月21日 防災訓練の内容などについてミーティング
- 7月下旬 防災訓練のチラシを回覧、町会掲示板上に掲示。外国籍住民にポスティング
- 9月25日 当初9月2日に予定していた防災訓練が新型コロナウイルスの影響により延期されたため、改めて内容、進め方などについてミーティング
- 10月30日 防災訓練実施

事業の実施内容

● 西が丘多文化クラブ

実施場所 西が丘三丁目団地集会所
実施日 令和4年4月から令和5年3月まで、
8、9月を除き月1回

以下の2部構成で実施。参加費は無料。東洋大学社会学部の多文化共生コースの学生が参加して学習指導やレクレーションなどを担当。

第1部 (午前10時～11時30分)

「外国籍と日本国籍の子供向け学習支援・レクレーション」

毎回15名程度の子供が参加。子供たちに学校の宿題などを教えるとともに、ボードゲームなどを楽しんだ。

第2部 (午前11時30分～午後1時)

「日本語教室や文化活動を通じた住民間の交流」

毎回15名程度の親子が参加。日本語教室や各国の音楽、ダンスなどを楽しむ文化交流を行った。



子供たちが各自で書いた名札。多文化クラブで皆、仲良くなった

● 防災訓練

実施場所 西が丘三丁目団地、近隣の公園
開催日 令和4年10月30日

多国籍住民も参加しやすい防災訓練を実施。多言語や「やさしい日本語」で書かれたチラシを外国籍住民宅にポスティングし周知した。

訓練の内容は、消火器やスタンドパイプの使い方などに加え、団地に高齢者が多いことから、折りたたみ式の車いすの扱い方について外国籍住民にも体験してもらった。説明も「やさしい日本語」を使って行った。



水消火器を使った消火訓練

事業による成果・効果

外国から来た若い人たちの参加が自治会活動の力に

西が丘三丁目団地には中国や韓国、ベトナム、バングラディッシュ、ミャンマー、フィリピンなど10カ国近い人たち約40世帯が入居し、その多くが小さな子供のいる若い世代である。

「多文化クラブ」や防災訓練の取り組みにより、住民間で顔の見える関係をつくるきっかけとなった。外国籍住民と交流が深まるなかで、例えば車いす専用通路を自転車で走らないようにするなど、子供たちは団地のルールを守るようになった。また、特に若い外国籍の方が子供まつりなどの団地の行事を手伝ってくれるようになり、住民の高齢化が進むなか、頼もしい存在となっている。

事業を振り返って

母親が外に出るきっかけに

「外国から来た方は、お父さんは職場で、子供は学校で日本語を話せるようになりますが、お母さんはあまり外に出ないので、なかなか話せるようになりません」と西が丘三丁目団地自治会長の佐々木チヨさん。その点、「多文化クラブ」では親子での参加が多く、母親が外に出る良い機会になっている。これから、お母さん同士の横のつながりも広げてほしいと佐々木会長は話す。



お話を伺った西が丘三丁目自治会の皆さん。右が会長の佐々木チヨさん。